

<b>授業科目名</b>	乳児保育 I	<b>講師名</b>	小川夕也
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b>	待機児童が社会問題として注目を帯びる中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
<b>目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷および役割等について理解する</li> <li>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する</li> <li>4. 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域との連携について理解する</li> </ol>		
<b>内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 乳児保育の意義</li> <li>2. 乳児保育の歴史の変遷と役割</li> <li>3. 乳児保育をめぐる社会の実状</li> <li>4. 3歳児神話の揺らぎと乳児保育</li> <li>5. 保育所における乳児保育</li> <li>6. 児童福祉施設における乳児保育</li> <li>7. 乳児の発育・発達を踏まえた保育者による援助（0歳児）</li> <li>8. 乳児の発育・発達を踏まえた保育者による援助（1歳以上3歳未満児）</li> <li>9. 乳児の生活と環境</li> <li>10. 乳児の遊びと環境</li> <li>11. 乳児の食と栄養</li> <li>12. 乳児の保健</li> <li>13. 職員間の連携・協働</li> <li>14. 保護者および地域との連携・協働</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>教科書</b>	『新時代の保育双書 乳児保育』大橋喜美子 編 （株）みらい		
<b>授業の形態</b>	講義		
<b>／方法</b>	／教科書および配布プリントによる講義を行います。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。		
<b>その他の事項</b>	担当講師は乳児保育園にて9年間の実務経験あり		

<b>授業科目名</b>	乳児保育Ⅱ	<b>講師名</b>	小川夕也
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30時間
<b>概要</b>	待機児童が社会問題として注目を帯びる中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
<b>目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における乳児保育のねらいおよび内容について理解する</li> <li>2. 保育現場で取り扱う記録の役割を理解し、作成を行う</li> <li>3. 乳児保育における計画の作成について理解する</li> </ol>		
<b>内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 養護と教育を一体的に考える</li> <li>3. 乳児保育のねらいおよび内容</li> <li>4. 1歳以上3歳未満児のねらいおよび内容</li> <li>5. 保育現場で取り扱う記録の役割</li> <li>6. 連絡帳を用いた保護者との連携</li> <li>7. おたよりを用いた保護者との連携</li> <li>8. 長期的な指導計画と短期的な指導計画</li> <li>9. 個々に応じた指導計画</li> <li>10. 諸外国の子育て支援</li> <li>11. 保護者のニーズと拡大する保育サービス</li> <li>12. 理想の保育サービスを考える</li> <li>13. 発表（グループ1）</li> <li>14. 発表（グループ2）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>教科書</b>	『新時代の保育双書 乳児保育』大橋喜美子 編 （株）みらい		
<b>授業の形態</b>	講義・演習		
<b>／方法</b>	／教科書および配布プリントによる講義と、書類作成などの演習を行います。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。		
<b>その他の事項</b>	担当講師は乳児保育園にて9年間の実務経験あり		

<b>授業科目名</b>	<b>教育原理</b>	<b>講師名</b>	木下孝一
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b> 教育原理は、教育の本質や目的、内容や方法などについて、基本的な知見を蓄えることが期待される科目である。本授業では、教育の研究や実践に不可欠だと考えられる概念や議論を、出来るだけ分かりやすく紹介・解説し、教育に関する歴史や思想にふれながら基本的な考え方について理解を深めることを目的とする。また、「教育とは何か」という問いかけに対して、幼稚園・保育所の歴史を通して、今後教育はどうあるべきかを問い続ける姿勢を身に付ける。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する</li> <li>2. 教育思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する</li> <li>3. 教育の制度について理解する</li> <li>4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する</li> <li>5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 子どもの発達と教育の目的</li> <li>2. 教育の意義</li> <li>3. 教育の歴史① 学校の歴史</li> <li>4. 教育の歴史② 海外の教育史（古代、近代の教育史）</li> <li>5. 教育の歴史③ 海外の教育史（近代教育学の成立～新教育運動）</li> <li>6. 教育の歴史④ 日本の教育史</li> <li>7. 教育・保育の制度について</li> <li>8. 教育課程と評価について① 教育課程とカリキュラム</li> <li>9. 教育課程と評価について② 評価の主体と方法</li> <li>10. 教育・保育実践（内容・方法）</li> <li>11. 教育・保育実践（評価）</li> <li>12. 教師の専門性</li> <li>13. 社会教育と生涯教育</li> <li>14. 現代日本の教育問題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b> 『よくわかる！教職エクササイズ① 教育原理』島田和幸・高宮正貴 編（ミネルヴァ書房）			
<b>授業の形態</b> 講義			
<b>／方法</b> 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

<b>授業科目名</b>	保育課程論	<b>講師名</b>	木下孝一
<b>実施年次 ／時期</b>	2年次 前期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b> 本授業は、乳幼児期の保育を実践する上で、必要不可欠となる計画についての基礎となる理論を学び、保育計画の作成を通して、保育を見通す力を養うことを目的とする。また、保育計画の意義について理解を深め、「何のため」「誰のため」の計画であるかを学ぶ。			
<b>目標</b> 1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する 2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解する 3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を捉え理解する			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 授業のねらいと概要 2. カリキュラムの基礎理論 3. 保育カリキュラムの構造 4. 指導計画の基礎① 指導計画の作成と留意事項 5. 指導計画の基礎② 指導計画の具体例 6. 保育の計画の方法と技術① 記録の方法と技術 7. 保育の計画の方法と技術② 環境を通して行う教育の計画の方法と技術 8. 幼稚園教育課程・保育所保育課程の変遷 9. 幼稚園の教育課程とは 10. 保育所の全体的な計画（保育課程）とは 11. 指導計画の実践① 環境の再構成 12. 指導計画の実践② 保育の振り返り 13. 保育の評価について① PDCA サイクル 14. 保育の評価について② 多様な保育の計画と保育評価 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『就学前教育の計画を学ぶ』松村和子・近藤幹生・椛島香代 編（ななみ書房）			
<b>授業の形態</b> 講義 <b>／方法</b> 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 80%、授業参加度（提出物、授業態度など）20%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

<b>授業科目名</b>	人間関係	<b>講師名</b>	木下孝一
<b>実施年次 ／時期</b>	1年次 後期	<b>時間数</b>	30時間
<b>概要</b> 本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、人とかかわることの意義や意味を学んだ上で、領域「人間関係」の基礎理論の理解を深めることを目的とする。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解する</li> <li>2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる</li> <li>3. 養育者・保育者など子どもを取り巻く人的環境における関係性について理解を深める</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもを取り巻く人間関係</li> <li>2. 保育の基本と人とのかかわり① 「生きる力」の原点としての人間関係</li> <li>3. 保育の基本と人とのかかわり② 領域「人間関係」とは</li> <li>4. 乳幼児期における人とのかかわり① 0歳児の人間関係</li> <li>5. 乳幼児期における人とのかかわり② 1歳以上3歳未満児の人間関係</li> <li>6. 乳幼児期における人とのかかわり③ 3歳以上児の人間関係</li> <li>7. 遊びのなかで育つ人間関係① 人とのかかわりと遊び</li> <li>8. 遊びのなかで育つ人間関係② 子どもの遊び体験</li> <li>9. 人とのかかわりを育てる保育の実践① 保育現場での実際</li> <li>10. 人とのかかわりを育てる保育の実践② 遊びを通じた総合的指導</li> <li>11. 多様な配慮と保育構想</li> <li>12. 小学校生活への連携</li> <li>13. 子どもの人間関係と社会性・道徳性</li> <li>14. 家庭や地域との連携</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b> 『ワークで学ぶ 保育内容「人間関係」』菊池篤子（みらい）			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> 教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

<b>授業科目名</b>	保育者論	<b>講師名</b>	木下孝一
<b>実施年次 ／時期</b>	2年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<b>概要</b> 本授業では、保育者の倫理観に裏付けされた役割や、制度的な位置づけ、歴史的背景などについて学び、子どもの保育と保護者支援を行う保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。また、「成長し続ける保育者」をキーワードとし、各自が理想とする保育者像に近づくために、何が必要か、を問い続ける姿勢を大切にしていきたい。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解する</li> <li>2. 保育者の制度的な位置づけを理解する</li> <li>3. 保育者の専門性について理解する</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解する</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者とは① 保育者の役割と倫理</li> <li>2. 保育者とは② 保育者の1日</li> <li>3. 保育者の制度的位置づけ</li> <li>4. 保育者の役割① 子どもの理解</li> <li>5. 保育者の役割② 乳幼児期の生活</li> <li>6. 保育者の役割③ 子どもの豊かな生活</li> <li>7. 保育者の歴史① 海外の歴史</li> <li>8. 保育者の歴史② 日本の歴史</li> <li>9. 保育者の専門性① 保育者に求められる資質・能力とは</li> <li>10. 保育者の専門性② 保育の実践と省察・評価</li> <li>11. 保育者の専門性③ 保育の質の向上</li> <li>12. 保育者の連携・協働① 保護者・家庭とのかかわり</li> <li>13. 保育者の連携・協働② 同僚とのかかわり</li> <li>14. 保育者の資質向上とキャリア形成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	『新しい保育講座② 保育者論』 汐見稔幸・大豆生田哲友 編（ミネルヴァ書房）		
<b>授業の形態</b>	講義		
<b>／方法</b>	／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		